

「主のみこころなら」

ヤコブ4：13～17

堀田修一 21・6・20

先行する神の恵み：主は、私たちの高ぶりの罪（神に生かされている事を知らず、神なんかいない、自分の力で人生を歩むという心）の為に十字架で死んで下さいました。

I 誤った自己過信→：13。

1. 「もうけよう」。収入を得ること自体は悪い事ではありません。しかし、儲けたお金をどう用いるかが大切です。神の栄光を現わす事ではなく、儲けること自体が目的となる時、人間はお金に支配され、おかしくなります。I テモ6：9～10。儲けるためには不正もどんどん行い、他の人が困ったり、害（公害）を受けても気に留めなくなり、分け与えようとしなくなります。「今日か明日、これこれの町に行き、そこに一年いて商売をしてもうけよう」：13。日々の計画を立てること自体は大切です。神が与えて下さった時間を生かして用いることができます（エペ5：16）。しかし、この人の誤りは、これらすべての決定が自分だけのもので、自分の人生の命運を握っているのは自分以外の何者でもないという過信しているところにあります。私たち人間は、自分で自分の命を生み出した者ではなく、神によって尊い命を与えられた者ですから、神の栄光を現わす為に人生の計画を立てることが、真の生きる道です。：13の人々の眼中には神はありません。13節の「 」の中に、神の事が登場していません。15節と比較しましょう。これは、御言葉が強調している大切な対比です。私自身、それを初めて発見した時、感動しました。神を無視する人生か、神を中心に置く人生か。大きな差がある。人生には、自分の計画通りにはいかない事が多くあります。その時、「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ」（箴3：6）の御言葉を信頼する人は幸いで

す。私たちには理解できない事が起こります。そこにも神のご支配がある事実を認めましょう。私たちは、すべて理解できた時だけ神に信頼するのではなく、理解できない時にも全知全能の神に信頼するのが信仰です。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ」（イザ55：8）。「神を愛する人々…のためには神がすべての事を働かせて益としてくださる」（ローマ8：28）。

2. 「あなたがたは大言壮語して誇っています」：16→実際は、神に生かしていただいているのに神に感謝もせず、むなしく自分を誇り高ぶっている。ある金持ちの高ぶり「何年分もいっぱい物がためられた…神は言われた「愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる」（ルカ12：20）。高ぶる人は、主を信じて生きる事を弱い人間の消極的な生き方だと言い、神なんか頼らず、自分の力で生きる事が本来の生き方だと思いがります。しかし、それこそ、「そのような誇りはすべて悪いことです」：16。「自分の力で」と誇っても、実は私たちの命も体も能力も神が与えて下さっているものです。真の神を信じ神に拠り頼みつつ生きる姿は、人間にとり最も自然な姿です！幼子が親を信頼して親の腕の中で眠っているのが自然なように。なぜなら神が人をそのようにして生きるように造られたからです。※証し。赤ちゃんの孫が私の腕の中で眠る姿と私が神の愛の腕の中で安らぐ姿が重なる。

Ⅱ 人間の弱さ。：14。

1. 私たちには「明日のことは分かりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です」：14。「あすのことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないからだ」（箴27：1）。本当に、私たちには、あすのこと、今日の午後の事、何が起こるか、自分や他の人の命があるか誰にもわからない。ここに、私たち人間がへりくだらされる理由があります。主も言われました。「明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。労苦はその日その日に十分あります」（マタイ6：34）。何があるか分からない明日は、神のもので、心

配しないで神に委ねなさい。労苦は今日、十分あるので、この一日を主と共に大切に生きなさいと教えられました。私に取り、このみことばは、大きな支えです。

2. 私たちのいのちは「しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です」：14。自分には力があると思いがっても、一つ確実な事がある。それは、遅かれ早かれ、必ず人には死がやって来るという事実。人は自分の力に頼っても、確実に力は衰えて行き、いつかは死がやって来る。正に、私たちは、はかなく空しく消える霧にすぎない。しかし主にある希望がある。そのようにはかない命しか持っていないからこそ、私たちは、年齢に関係なくイエス様を信じる事が大切です。その時、「しばらくの」いのちではなく、「永遠の」いのちをいただけるのです（ヨハネ3：16）。ハレルヤ！

Ⅲ 正しい生き方。：15、17。

1. 「主のみこころであれば」：15。これをいつも第一に考え祈る人は幸いです。パウロの大切な生き方→「神のみこころなら…戻って来ます」（使18：21）。「主のみこころであれば…行きます」（Iコリ4：19）。「主がお許しになるなら…滞在したい」（16：7）。：13の人々と比べよう。：13の人々は、少しも主の事を考えていない。自分勝手な生き方です。そこにはいつか、大きな過ちと挫折がやって来ます。しかし、この15節の人のように、「生きていて」、つまり生きていること自体も、主のみこころ（御支配、摂理）、恵み、憐みの中にある事を認める人は幸いです。私たちは自分で生きているのではなく、神に生かされているのです。私達の心臓が動いているのも神の恵みです。私たちは、神の時に生まれ神の時に死ぬのです。「生まれるのに時があり、死ぬのに時がある」（伝3：2）。だから心配せず、神に死の事は委ね、今の与えられた時、一日一日を大切に生きる事が大切です。また主のみこころなら「このことを、または、あのことをしよう」：15。あれも、これもと、あせり、ただ忙しくするのではなく、主の御心を祈り求めよう。主が分け与えておられる自分の分に焦点を合わせる事が大切（ルカ10：42、ピリ3：

13, 14)。主は、i 御言葉、ii 祈り、iii 状況、iv 神に信頼している人の助言等を結び合わせて、御心を示してくださいます。

2. 「こういうわけで、なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です」：17。「なすべき良いこと」→：15の「主のみこころ」。私たちが主のみこころを知るには

- ① 御言葉(毎朝のディボーションの御言葉、礼拝メッセージ、聖書通読)。
- ② 祈り、神との交わりで神が私たちの心に語り掛けて下さる。
- ③ 色々な状況を通して、なすべき御心を示して下さい。
- ④ 神に信頼している人の助言を通して。

但し、人ができるのは助言までであり、最終決断は、本人自身が主に祈りつつ行う。決断した結果を人のせいにせず自分自身で負う(ガラ6：5)ことで成長する。なすべき正しいこと(主のみこころ=ヤコブ4章→へりくだり、神に近づく、手と心を清めていただく、悪口を言わず、さばかず、愛し合う、貪欲で自分勝手な人生ではなく、主の御心で生かされている事を感謝し、主が示して下さいなすべき自分の分)を内住の素晴らしい助け主、御聖霊により実行できるように祈りましょう。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです」ピリピ2：13。これからも、神が、みこころのままに私達の内に働いて志を立てさせ、神が喜ばれる事を行わせて下さいますように。

祈り：主のみこころを求め、主のみこころの時まで、生かされ、主のみこころに添って、このこと、あのことを実行する者として下さい。